

## 田崎一二先生のこと

平成29年8月31日

(昭和26年4月18日第三種郵便物認可)



田崎一二先生とフコ夫人

つるのり年一月に田崎一二先生は米国NIHの所長室に向かう途中で倒れられなくなりました。98歳でした。米国で緒だつた京都府立医大名誉教授の外山敬介さんは電話で「田崎さんは一生を研究に捧げられた」と言われました。

田崎先生は1910年に福島県に生まれ、慶應の医学部を出て、生理教室に入られました。(12回)。先生は單一神経を用いて、有髓神経では電流はランピエの絞輪飛び飛びに流れている跳躍伝導を見つけられました。今ではどのように教科書にも書かれています。

当時、第二次大戦中だったので、ドイツのPfizers Arch Physiolに載せるため、潜水艦で渡航して、Hodgkin-Huxleyのモデルが残っています。

勝木保一 東京医科歯科大学の元学長は聴覚の研究者でしたが、「田崎には渡り、NIHで聴覚のマイクロフォン効果を見つけました。後英國、スイス、米国に渡り、NIHで聴覚のマイクロフォン効果を見つけて活躍されました。私もScienceに出すなどしてもScienceなど)雑誌に論文を出され、現役として活動されました。一生を学問に貢献したいといふ夢はもっていて、田崎先生を理想としていました。

田崎をもたらせる人はいませんでした。田崎が文化勳章をもらはうまではもうわらないと言いましたが、結果田崎は日本文化大賞を授与されました。田崎は両方の賞を授与されませんでした。田崎はN.I.H.に移られたので、萩原生長渡辺昭夫など多くの研究者と共に研究をされ、また多くの留学生を指導されました。田崎は有名なHodgkin-Huxleyのモデル

先生はN.I.H.に移られたので、萩原生長渡辺昭夫など多くの研究者と共に研究をされ、また多くの留学生を指導されました。田崎は有名なHodgkin-Huxleyのモデル

先生はN.I.H.に移られたので、萩原生長渡辺昭夫など多くの研究者と共に研究をされ、また多くの留学生を指導されました。田崎は有名なHodgkin-Huxleyのモデル

先生はN.I.H.に移られたので、萩原生長渡辺昭夫など多くの研究者と共に研究をされ、また多くの留学生を指導されました。田崎は有名なHodgkin-Huxleyのモデル

その奥様を先に逝きました。その心中は察するに余ります。私たち後輩も、先生の後を継ぐべく努力すべきだと思います。この文章を書かせてもらいました。

高田明和  
エクト理事長  
40回